



女性学研究センター年次報告・2015年度

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-04-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/14922

女性学研究センター年次報告・2015年度

1. 運営体制

所長 山崎正純（人間社会学研究科長）

主任 伊田久美子

副主任 村田京子、東優子

「女性学研究」編集委員長 浅井美智子

「女性学研究」編集委員 熊安貴美江

その他共同研究員 青木賜鶴子、上村隆広、工藤宏司、酒井隆史、田間
泰子、福田珠己、堀江珠喜、宮脇幸生、山中京子

学外研究員 足立真理子（お茶の水女子大学）、木村涼子（大阪大学）、
高岡尚子（奈良女子大学）、福永真弓（東京大学）、古久保
さくら（大阪市立大学）

運営委員（所長・主任・副主任のほか）

ケイン・ケビン（言語文化学専攻）、秋庭裕（人間科学専攻）、
児島亜紀子（社会福祉学専攻）

事務職員 伊藤ゆきこ

2. 授業

・大学院科目（人間社会学研究科）

「ジェンダー論特論1A」「同1B」（半期各2単位。伊田久美子）

「同2A」「同2B」（半期各2単位。田間泰子）

・専門科目（学部科目）

「ジェンダーと社会」（半期2単位。伊田久美子）

「ジェンダーと社会思想」（半期2単位。浅井美智子）

「ジェンダーと教育」（半期2単位。土田陽子）

「ジェンダー論演習A」「同B」（半期各2単位。田間泰子）

・教養科目（機構提供科目）

「ジェンダー論への招待」（前期2単位。伊田久美子・福田珠己・熊

安貴美江・浅井美智子・児島亜紀子・宮脇幸生・田間泰子)
 「ジェンダーとヨーロッパ文化」(前期2単位。村田京子)
 「ジェンダーと日本文化」(後期2単位。青木賜鶴子)

3. 第19期女性学講演会 第1部

女性学連続講演会・連続セミナー「性の多様性と家族」
 共通テーマにより、講演会およびセミナーを3週(11月7日～11月22日)にわたって実施。

主催：女性学研究センター

コーディネーター：

東優子(大阪府立大学教授、女性学研究センター副主任)
 熊安貴美江(大阪府立大学准教授)

第1回 「家族の多様化をめぐる価値観の対立」

講師：東優子(大阪府立大学教授、女性学研究センター副主任)

第2回 「企業活動におけるD&I推進と性の多様性」

講師：村木真紀(NPO法人虹色ダイバーシティ代表)

第3回 「異性愛血縁家族を超える(?)家族の形」

講師：青山薫(神戸大学大学院国際文化学研究科教授)

4. 第19期女性学講演会 第2部

「文学とジェンダー」(12月12日/12月26日)

第1回 「シンデレラ——玉の輿物語を比較文学的に考える」

講師：堀江珠喜(大阪府立大学教授)

第2回 「文学における危険な女性たち」

・「母と娘——フローベールのサロメ像と神話の変遷」

講師：大鐘敦子(関東学院大学教授)

・「危険な『ヴィーナス』——ゾラの娼婦像と絵画」

講師：村田京子(大阪府立大学教授、女性学研究センター副主任)

* 第2回は、大阪府立大学人間社会学研究科「文学とジェンダー」共同研究プロジェクト共催

5. 女性学研究コロキウム

「イタリアの広告にみる女性身体表象のステレオタイプと暴力」
(4月11日開催。於大阪府立大学中百舌鳥キャンパス。)

報告：エレナ・ローザ

(ロッキータ協会代表、2014年トリノ広告フェスティバル実行委員長)

討論者：荒木菜穂 (大阪府立大学客員研究員)

堀あきこ (一般社団法人代表)

コーディネーター：伊田久美子

(大阪府立大学教授、女性学研究センター主任)

6. 国際交流事業

国際シンポジウム「グローバル化と因習に抗する女性たち——エチオピアにおける女性支援NGOの取り組みから——」(10月3日開催。於大阪府立大学中百舌鳥キャンパス。)

シンポジスト：

テショメ・シーニ (総合地域教育開発協会理事)

ホラ・スラ (ホール女性組合幹事)

エロ・オド (ICEDA コミュニティ統括委員)

眞城百華 (上智大学准教授)

宮脇幸生 (大阪府立大学教授)

*ICEDA (Integrated Community Education & Development Association)：エチオピアのNGO団体

討論者：伊田久美子 (大阪府立大学教授、女性学研究センター主任)

田間泰子 (大阪府立大学教授)

浅井美智子 (大阪府立大学教授)

主催：女性学研究センター

科研基盤研究(B) 海外学術調査「NGO 活動の作りだす流動的
社会空間についての人類学的研究——エチオピアを事例とし
て」(代表：宮脇幸生)

科研基盤研究(C)「非配偶者間生殖の新しいフレーム構築に関する研究」(代表：浅井美智子)

7. 男女共同参画事業

『何を怖れる——フェミニズムを生きる女たち』上映会+ワークショップ
「フェミニズムのバトンをつなぐ」(10月15日開催。於大阪府立大学中百舌鳥キャンパス。)

ゲストスピーカー：

上野千鶴子(立命館大学特別招聘教授、認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク理事長)

コーディネーター：

伊田久美子(大阪府立大学教授、女性学研究センター主任)

浅井美智子(大阪府立大学教授)

*大阪府立大学ホームページ「2015年度ニュース」に掲載

(<http://www.osakafu-u.ac.jp/news/2015/nws20151022.html>)



映画上映後のフリートークの様子



参加者の質問に返答される上野さん



ワークショップの様子1



ワークショップの様子2

8. ジェンダー研究セミナー

「男女雇用機会均等法における「平等」の枠組みを問い直す——関西の労働運動に着目して」(2016年3月19日開催。於大阪府立大学 I-site なんば。)

報告者：WISH（女性と制度と歴史研究会）メンバー

- 荒木菜穂（大阪府立大学客員研究員）
- 鈴木彩加（日本学術振興会特別研究員）
- 関めぐみ（大阪府立大学大学院博士後期課程）
- 堀あきこ（一般社団法人代表）

コメンテーター：

栗田隆子（働く女性の全国センター代表、ライター）

伊田久美子（大阪府立大学教授、女性学研究センター主任）

* 科研基盤研究(B)「ジェンダー平等社会の実現に資する研究と運動の架橋とネットワーキング」と共同主催

9. 図書・文献資料の収集

例年どおり、外国語文献資料ならびに新刊邦語文献を中心に収集した。諸雑誌の購読も継続している。

10. その他

[後援事業]

- 関西性教育研修セミナー「人間の性をめぐる諸言説の本当と嘘」
(8月9日開催。於大阪府立大学I-siteなんば。)
対談：ミルトン・ダイヤモンド（ハワイ大学元教授）
東優子（大阪府立大学教授、女性学研究センター副主任）
- 公開シンポジウム「均等法は『白鳥』になれたのか ——男女平等の戦後労働法制から展望する」(10月25日開催。於日本学術会議講堂。)
コーディネーター：大沢真理（日本学術会議連携会員、東京大学教授）
開会挨拶 遠藤薫（日本学術会議第一部会員、ジェンダー研究分科会委員長、学習院大学教授）

報告者：上野千鶴子（日本学術会議連携会員、立命館大学特別招聘教授）

中野麻美（弁護士、フォーラム・「女性と労働21」共同代表、派遣労働者ネットワーク理事長）

小林洋子（厚生労働省雇用均等・児童家庭局雇用均等政策課長）

コメンテーター：村尾祐美子（東洋大学准教授）

松田康子（情報労連、労働政策審議会雇用均等分科会前委員）

総括コメント：小宮山洋子（小宮山洋子政策研究会、元厚生労働大臣）

- お茶の水女子大学140周年記念事業

国際シンポジウム「ジェンダーで見る新自由主義・政策・労働：社会的再生産はいかに行われるのか？」（12月1日開催。於お茶の水女子大学。）

登壇者：スーザン・ヒメルヴァイト（ロンドン自由大学名誉教授）

定松文（恵泉女学園大学教授）

上野千鶴子（立命館大学特別招聘教授）

足立真理子（お茶の水女子大学教授）

伊田久美子（大阪府立大学教授、女性学研究センター主任）

主催：お茶の水女子大学グローバル女性リーダー育成研究機構・ジェンダー研究所

- 関西性教育研修セミナー「押されても 揺らいでも 立ち続けることの意味を問う」(2016年3月13日開催。於大阪府立大学I-siteなんば。)

基調講演：池上千寿子（ぶれいす東京・顧問）

教育講演：岡田実穂（RC-NET代表）

野坂祐子（大阪大学准教授）

東優子（大阪府立大学教授、女性学研究センター副主任）

[受託事業]

堺市男女共同参画に関する市民意識・実態調査監修等業務（伊田久美子・田間泰子担当）

[投稿論文 奨励賞受賞]

『女性学研究22』掲載の投稿論文が南山大学第9回社会倫理研究奨励賞の審査員賞を受賞しました。

受賞論文：「フェミニスト現象学における「産み」をめぐる
——男性学的「産み」論の可能性——

著者：居永正宏（大阪府立大学客員研究員、日本学術振興会特別研究員）

* * *

今年度も無事に予定の事業を終了できました。みなさまのご協力に心より感謝申し上げます。

引き続き女性学・ジェンダー研究の推進による男女共同参画社会の実現をめざす活動に、学内外の諸機関等と連携しながら取り組んでまいりました。

中でも、今年度の男女共同参画事業は、10月15日に開催した映画「何を怖れる——フェミニズムを生きた女たち」の上映と、出演者のおひとりである上野千鶴子さんのトーク、ワークショップでした。ワークショップは会場のキャパシティをはるかに超える申込がありました。本学広報課に取材していただき、後日報告記事をアップしていただきました。

ワークショップでは映画と上野さんのトークに触発されて参加者の活発な発言が続きました。ワークショップ冒頭、上野さんは70年代フェミニズム登場後40年を経た今日の日本の状況が、未だに大きな男女格差の中にあることをデータを示しながら解説し、続く世代には謝ることから始めなければならないと言われました。たしかに国際的動向に大きく遅れて男女共同参画社会の実現にはまだまだ見通しの立たない今日、第1世代は、たとえ困難な道を切り開いて来たとはいえ、山積みの課題を前にして、どう頑張ってきたか、だけではなく、なぜ成果が上がらないのかを振り返らなけ

れば、続く世代へのバトンタッチはできません。しかし第1世代の個人が、納得の行く人生を自由に生きてきたことが映画に現れる彼女たちの表情からも上野さんのお話からも生き生きと伝わり、それこそが続く世代にエールを送ることのできる大切なメッセージであると思うのです。上野さんとの対話が参加者ひとりひとりのエンパワーにつながる手応えを感じることできたワークショップでした。

今期は本学人間社会学研究科でジェンダー研究に取り組む大学院生を含む若手研究者のジェンダー研究セミナーを3月に開催しました。

本誌への投稿はますます増えていますが、浅井美智子編集長、熊安貴美江編集委員の下、共同研究員のみなさまに査読のご協力をいただき、今年度も無事3本を掲載することができました。温かく厳しいご指導に感謝申し上げます。

全学的に厳しい予算状況の下、「女性学講演会記録集」は昨年度より電子媒体としての刊行となりましたが、この記録集所収論考や「女性学研究」所収論文の本学リポジトリからのダウンロード件数の高さは、ジェンダー研究における本センターの活動への注目と評価を示しており、平成26年4月～12月のダウンロード件数上位50件のうち5件が女性学研究センター刊行紀要からのものです。また今年度は文部科学省科学研究費補助金における細目別取得ランキング10位までの大学名が公表されていますが、本学HPにも報告されているように、本学はジェンダー細目にも登場しています。女性学・ジェンダー研究は大阪府立大学の特色のひとつを構成しており、本センターの活動も大きく貢献していると自負しております。

本センターは今年度4月よりジェンダー教育研究に一層の貢献をめざし人間社会学研究科附置センターとして再出発しました。これからも教育研究活動の一層の充実をめざして努力していく所存です。今後ともセンターの活動へのご注目をよろしく願います。

女性学研究センター

主 任 伊田久美子

副主任 村田 京子、東 優子